

高品質養殖ビワマスの開発について

水産試験場醒井養鱒場(米原市上丹生)では、琵琶湖固有種のビワマス(ニホマス)を滋賀県の新たな特産養殖魚とすべく、その養殖技術を開発してきました。

ビワマスは、産卵期になると成熟して肉質が劣化することが課題であったため、成熟しないビワマスを作り出す研究をさらに進め、平成23年度に技術を開発しました。

これを養殖魚として利用するためには、水産庁の「利用要領」に適合している旨の確認を、同庁から得る必要がありますが、この度、8月31日付けで水産庁から確認が得られました。

この10月中にも滋賀県から種苗提供を始めますので、来年から市場流通が始まると期待しています。

平成25年の夏頃には、塩焼きサイズ(20cm程度)が、平成26年からは刺身用サイズ(40cm程度)が供給できる見込みであり、天然ビワマスと併せて一年を通しておいしいビワマスが提供できるようになります。

水産試験場では、さらなる肉質向上に向けた研究に取り組んでいきたいと考えています。

